

⑧課題:高千穂郷・椎葉山世界農業遺産地域におけるアズキの伝統的利用方法および栽培方法の調査
代表者:宮崎大学 准教授 近藤友大

目的

アズキの過去と現在の利用方法および栽培されているアズキの形質、栽培環境の調査をおこない、高千穂郷・椎葉山地域でのアズキの栽培状況の基礎的な知見を得ることにより、在来系統を用いた伝統的な栽培方法と利用方法を残し、アズキ栽培の多様性を維持する。

成果

①日之影町における在来種アズキの栽培実態

- ・日之影町では、複数の在来種アズキの栽培実態があった。これらは、栽培の手間はかかるが食味優れているので、今日まで栽培が続いていると思われる。
- ・これらの在来種は、餡子や赤飯として利用されており、そのポリフェノール含量は、いずれも大納言より高かった。

②ブンズ/ブンドウ等について

- ・当該地域では、かつてブンズ/ブンドウと呼ばれる小豆によく似た作物が栽培されていたが、これは、現在も茶園の石垣に自生しているアズキの近縁種であるツルアズキと思われる。
- ・また、アズキの野生種であるヤブツルアズキやその交配種も自生していた。

地域に自生するブンズ/ブンドウの実態

